



宮澤賢治の春と修羅に共通する色

宮澤賢治は 1924 年に 69 編の詩をまとめて、『春と修羅』を出版している。

春は、花々が咲き誇る喜びの季節であるが、修羅は、常に戦闘を行う悪魔・鬼神を意味する。仏教の視点から北川前肇氏は、春と修羅が正反対の言葉で、修羅は「偽りに満ちた殺伐とした世界」、春は最上の安らぎを与えてくれる「仏界」と捉えている (cf. 『宮澤賢治一久遠の宇宙に生きる一』 2023 年、NHK 出版、42 頁)。

宮澤賢治は、「いかりののがさまた青さ／四月の基層のひかりの底を／唾 (つばき) しはぎしりゆききする／おれはひとりの修羅なのだ」(『新校本宮澤賢治全集』第 2 巻、詩 1 本文篇、22 頁) と述べ、「わたくしという現象は／仮定された有機交流電燈の／ひとつの青い照明です」(7 頁)、「わたくしが青ぐらい修羅を歩いてみるとき」(143 頁)、「春は草穂に呆 (ぼう) け／うつくしさは消えるぞ／(ここは蒼ぐるくてがらんとしたもんだ)」(23 頁) と言及している。蒼の「++」は草、倉は保管の様子を表し、蒼は「草の青さ」を表す。

賢治は、春と修羅に共通する色として青や蒼の青色を用い、時空を超えた普遍的生命への再生を祈っている。 (吉村耕治)

●LED 色光による治療効果

以下はテレビ番組で出会った話である。大阪大学の日比野佐和子教授他が出演されていて、LED の特定の色光が、特定の症状の治療に効果があるという内容であった。

一例は、赤い LED 光が頭髮の発毛を促進するという治療例である。「毛生え薬」は昔から市販されているが、赤い LED 光を照射すると発毛が促されるとわかり、治療用として、中に赤色 LED を仕込んだヘルメットがあるとのこと。

他に、青色 LED の照射でアクネ菌を死滅させニキビの治療に用いられていると言う。顔や手足のシミ防止の治療に、レーザーよりダメージが少ない LED 治療が用いられるようになっていて、LED の波長により皮膚組織の中のとどく深さが、赤は浅く、青は深いために調整がきき、更にしわの改善にも役立っているとのこと。

また、近紫外線に近い紫色の LED を使った眼鏡が開発され、近視の進行を抑制する治療に効果をあげているとのこと。

このように、波長領域の選択がきく LED を使った色彩医療とも言うべきジャンルが進展していることに、学会員としても関心を寄せてほしい。 (永田泰弘)

●大辞泉ひろいよみ 29 一え

絵紺：えがすり。主として横糸によって絵画的文様を織り出した紺。

絵紙：えがみ。子供が遊びに使う、色刷りした絵や模様のある紙。画用紙。

絵唐津：唐津焼の一。慶長以降、肥前各地で焼かれたもので、鉄砂釉で描いた文様の上に釉がかけられている。

絵革：獅子・牡丹・不動尊などの文様の彫り型を当て、藍や赤で染めた革。

絵看板：劇場・映画館の前に、上演中の作品の場面などを描いて掲げる看板。

液晶テレビ：テレビ画面に液晶を使用したテレビ。

絵絹：えぎぬ。日本画を描くのに用いる平織りで薄地の絹織物。にじみ止めに礬水 (どうさ) をひいて用いる。

絵組：えぐみ。絵を組み合わせること。また、その絵。図案。書籍などに絵を組み入れること。また、その絵。

絵姿：絵にかいた姿。画像。

絵双紙・絵草紙：江戸時代、世間の出来事を一、二枚の絵入り読み物にした印刷物。読み売り。瓦版。草双紙のこと。絵本番付のこと。錦絵のこと。

画工：えだくみ。絵師。 (永田泰弘)